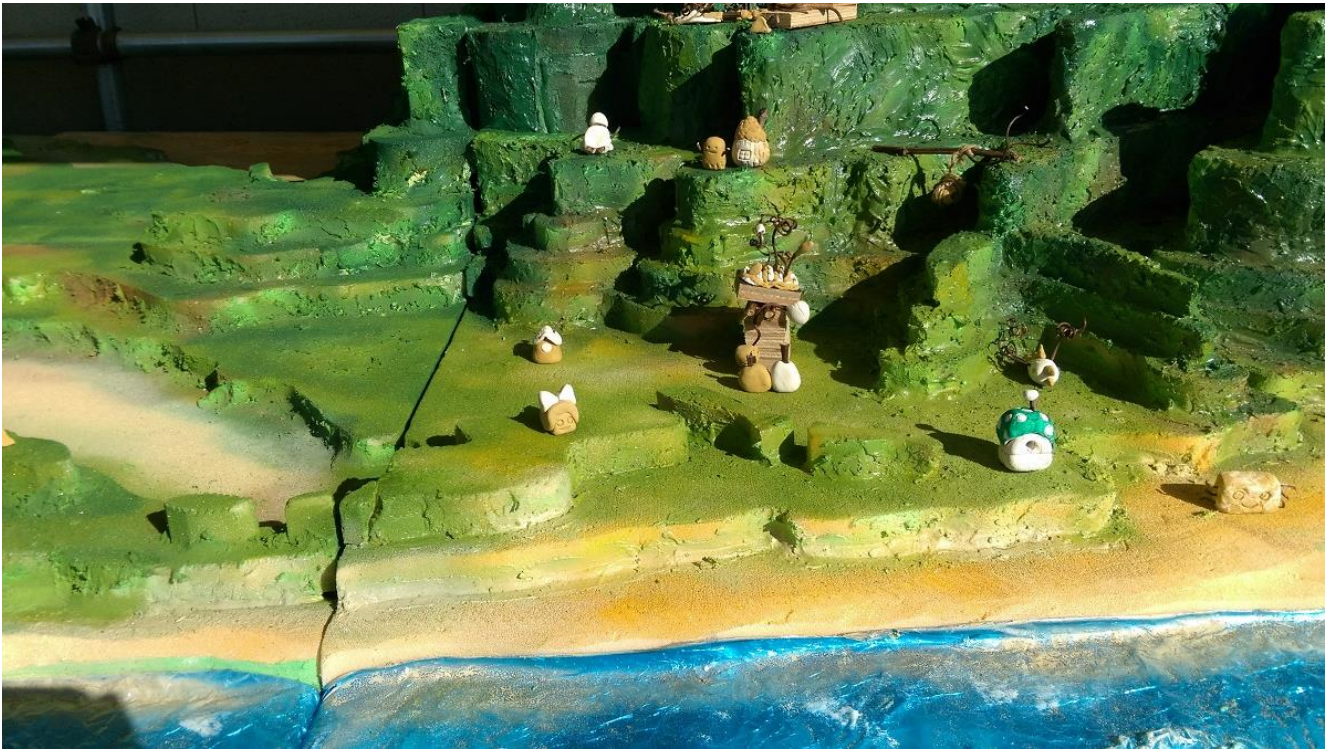


エメラルド・ヴィレッジ

～漂着者たちの村づくり～

主催：夢育塾



日本海を背景に常設展示「夢育ハウス」と風ぐるま441プロジェクト



村のルーツを多ジャンルのアートで表現

芸術祭会期を全て使い、様々なジャンルのアートを用いて越前浜集落のルーツを表現した。

- ◆常設展示『漂着者たちの村づくり』：巨大ジオラマを使った参加型の村づくり／流木でつくる夢育ハウスとモニュメント／他 来場者のべ658人
- ◆地域体験プログラム：アートクラフトワークショップ／塩田からの塩づくり／441個の風ぐるまづくり／他 参加者のべ36人
- ◆活読劇『七働伽藍』公演：劇団THE REDFACEによる戦国武将たちの死後の葛藤を描いた活読劇『七働伽藍』の上演（西遊寺本堂特別公演）来場者数154人
- ◆福井市一乗谷との交流事業：越前浜のルーツである一乗谷朝倉氏遺跡関係者との交流 参加者数102人
今から441年前、越前浜集落住民の先祖たちは遠く越前国から船に乗ってこの地にたどり着いた。その日本海を望む海の家をメイン会場に『エメラルド・ヴィ

レッジ～漂着者たちの村づくり～』は行われた。様々な実験的な試みの中で、参加型の常設展示と多様なワークショップを設け、会場を訪れた人々が関わりながらこの空間(エメラルド・ヴィレッジ)を育てていった。本プロジェクトの目玉である活読劇『七働伽藍』では、県内外から予測を大きく上回る参加をいただき大盛況に終わった。また、福井市一乗谷との交流も福井市と新潟市で2回に渡り実施し、多くの方からご参加いただくと共に、一乗谷朝倉氏遺跡保存会の岸田会長始め地元関係者からも深く参画をいただいたことにより、新潟(越前浜)一福井(一乗谷)間の深い絆を育てることができた。それは、このプロジェクトを通して得た最大の財産であり、今後の活動に活かしていきたい。参加者からは「越前浜の成り立ちや一乗谷との関係について学べた」「アートやものづくりを通して地域を表現する視点が面白い」などの声をいただいた。

- 7月14日(土)～10月8日(月・祝) 常設展示「漂着者たちの村づくり」(トロピカルリゾートばうわう)
- 9月22日(土) 岸田清氏講演会「越前朝倉氏を語る」(角田地区コミュニティセンター)
- 10月7日(日) 劇団THE REDFACE活読劇「七働伽藍」(西遊寺本堂)